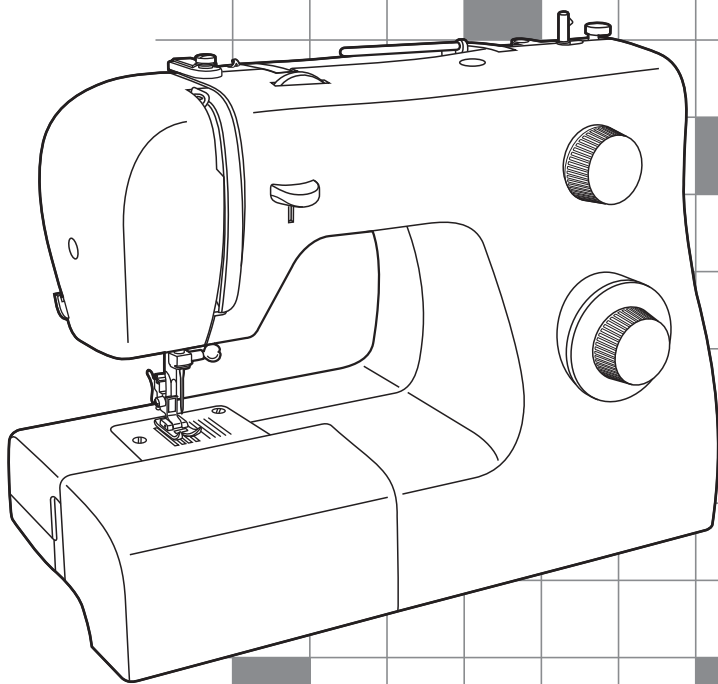


SINGER®



Compact sewing machine

使用の手びき

型式：SN521

このミシンを安全にお使いいただくため、この「使用の手びき」をご使用前に必ずお読みください。

「使用の手びき」は手元に保管し、末永くご活用ください。

◆ はじめに

このたびは、ミシンをお買い上げいただき、ありがとうございます。

このミシンは、直線ぬいやジグザグぬいはもちろん、ホームソーイングに必要なぬいが簡単にできる家庭用ミシンです。

このミシンの特長をご理解いただき、正しくお使いいただくために、まずこの「使用の手びき」をよくお読みください。

「使用の手びき」は、保証書と共に大切に保管してください。

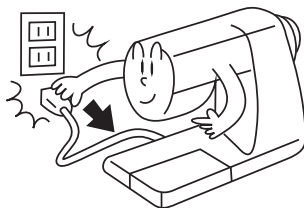
◆ 安全にご使用いただくために

このミシンを安全にご使用いただくために、以下のことがらを必ず守ってください。

このミシンは、日本国内向け、家庭用です。FOR USE IN JAPAN ONLY.

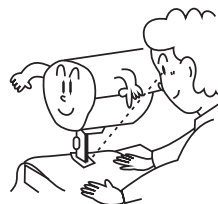
▲ 警告：感電、火災の恐れがあります

1. 一般家庭用交流電源 100V でご使用ください。
2. 以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
 - ・ ミシンのそばを離れるとき。
 - ・ ミシンを使用したあと。
 - ・ ミシン使用中に停電したとき。
 - ・ 接触不良、断線などで正常に作動しないとき。
 - ・ 雷が鳴りはじめたとき。



▲ 注意：感電、火災、けがの原因となりますから、特にご注意ください。

1. お客様自身での分解、改造はしないでください。
2. ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、はずみ車、天びんなどすべての動いている部品に手を近づけないでください。
3. ミシンの操作中は、カマカバーなどのカバー類は、必ず閉めてください。
4. 曲がった針、先の痛んだ針はご使用にならないでください。



◆ 安全にご使用いただくために

1. 縫製中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。
2. お子さまがご使用になるときや、お子さまの近くで使用されるときは、特に安全に注意してください。
3. 以下の事をするときは、電源スイッチを切ってください。
 - ・ 針、針板、押えを交換するとき。
 - ・ 「使用の手びき」に記載のあるミシンの手入れをするとき。
 - ・ 原則として上糸、下糸をセットするとき。
4. ミシンに以下の異常があるときは、すみやかに使用を停止し、購入店にて点検、修理、調整をお受けください。
 - ・ 正常に動作しないとき。
 - ・ 落下などにより破損したとき。
 - ・ 水に濡れたとき。
 - ・ 電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
 - ・ 異常な臭い、音がするとき。
5. ミシンを正しく使用するために、安定したテーブルや机に置いてご使用ください。



◆ ミシンの取り扱い

1. シンナーやベンジンなどでふかないでください。
2. 低温の場所から出したときは、普通の温度になじむまで、しばらく置いてください。時間がたてば正常に作動するようになります。保管は、なるべく寒いところをさけてください。
3. 直射日光にあてたり、高温多湿のところに置かないでください。



◆ 仕様

型 式	SN521
定 格 電 圧	100V
消 費 電 力	60W
周 波 数	50Hz/60Hz
L E D ラ イ ト	Max. 100mW
寸 法	幅： 375mm x 奥行： 163mm x 高さ： 271mm
重 量	約 6.1kg

◆ 目 次

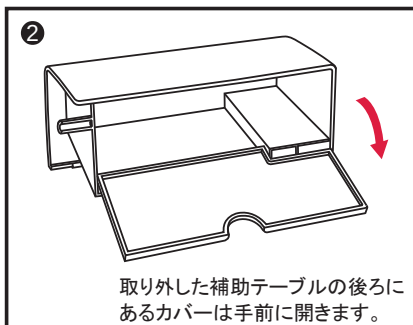
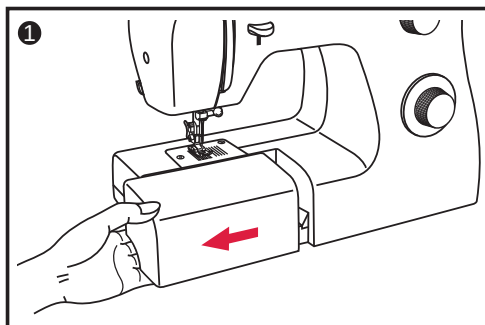
安全にご使用いただくために	2/3
ミシンの取り扱い/仕様	4
目次	5
補助テーブル・付属品	6
各部の名称	7
電源のつなぎ方と始動・停止	8
下糸の巻き方	9/10
ボビンの挿入方法/下糸の調節方法	11/12
上糸のかけ方	13/14
下糸の引き上げ方	15
針の取り外し方と取り付け方	16
布地に適した針と糸の選び方	17
模様の選び方	18
上糸調子の合わせ方	19
押えの取り外し方と取り付け方/押えホルダーの取り外し方と取り付け方/シームガイドの取り付け方	20
押え上げレバー/送りカバープレート	21
直線ぬい	22
返しぬい/ぬい方向のかえ方/厚地のぬい始め/段ぬい	23
飾りぬい	24
ジグザグぬい/たち目かがり	25
まつりぬい(ブラインドステッチ)	25/26
ボタンホールのぬい方	27/28
ファスナー付け	28-30
LEDの交換	30
ミシンのお手入れ	31
困ったときには	32
修理サービス要領	33

◆ 補助テーブル・付属品

補助テーブルを外すと、袖口や、裾、袋物をぬうときに利用できるフリーアームになります。

① 補助テーブルは左にスライドすると、本体より取り外せます。

② 付属品は、一部補助テーブル中に入っています。

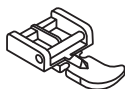


取り外した補助テーブルの後ろにあるカバーは手前に開きます。

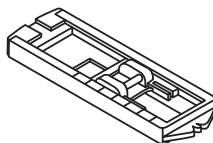
付属品 ※必ず下記付属品が入っていることを確認してください。



ジグザグ押え
(ミシン本体についてます)



ファスナー押え



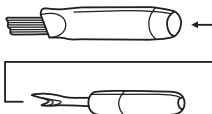
ボタンホール押え



ボタン付け押え



三角ドライバー



リッパー／ブラシ



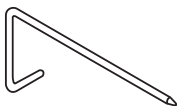
油さし



針パック



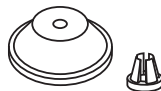
ボビン



シームガイド



送りカバープレート



糸コマ押え(大・小)



取扱説明書

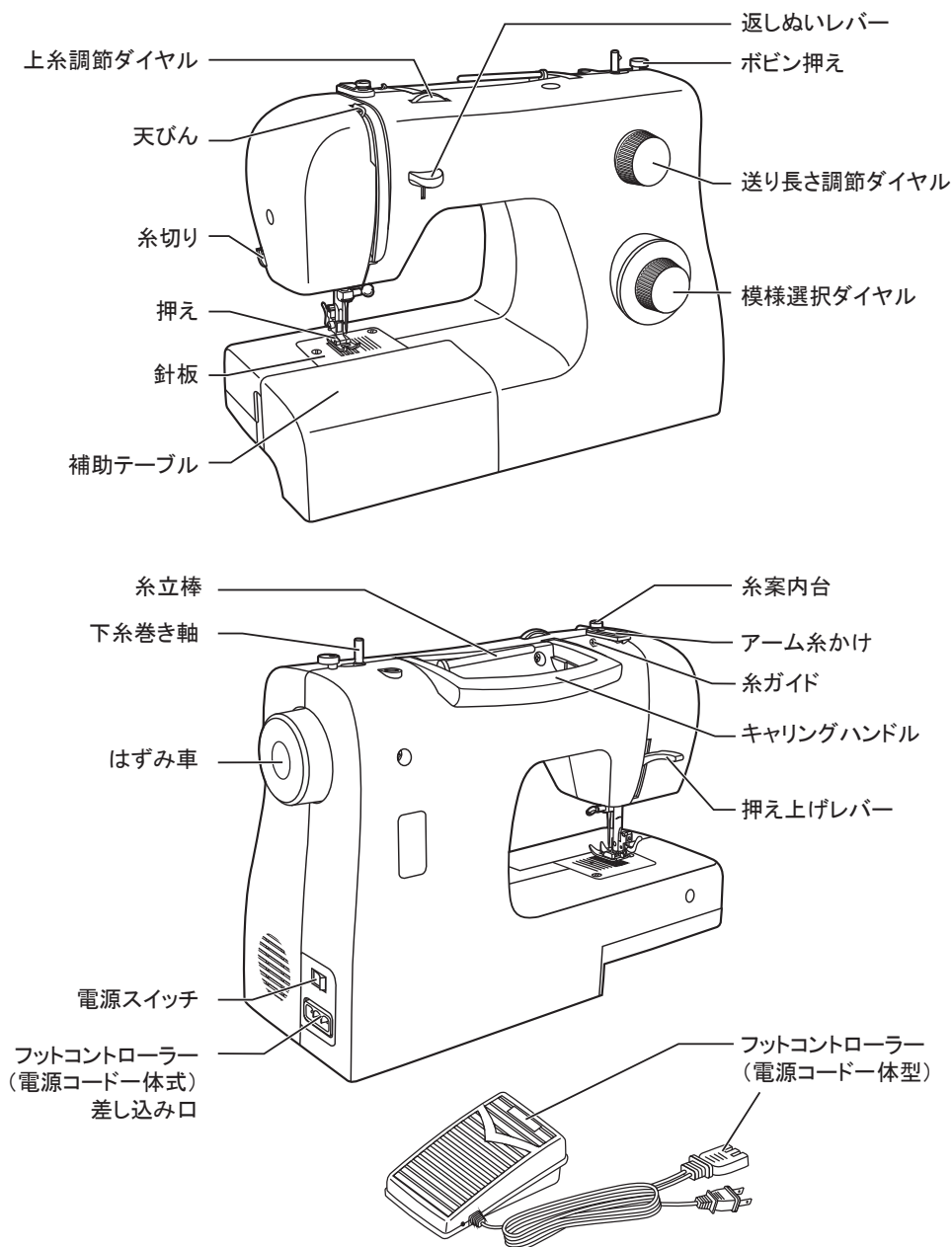


ソフトカバー



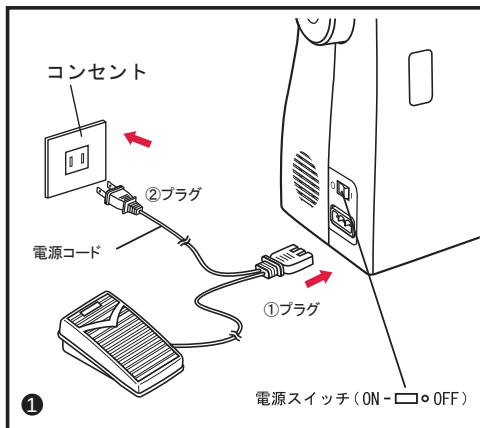
フットコントローラー
(電源コード一式)

◆ 各部の名称



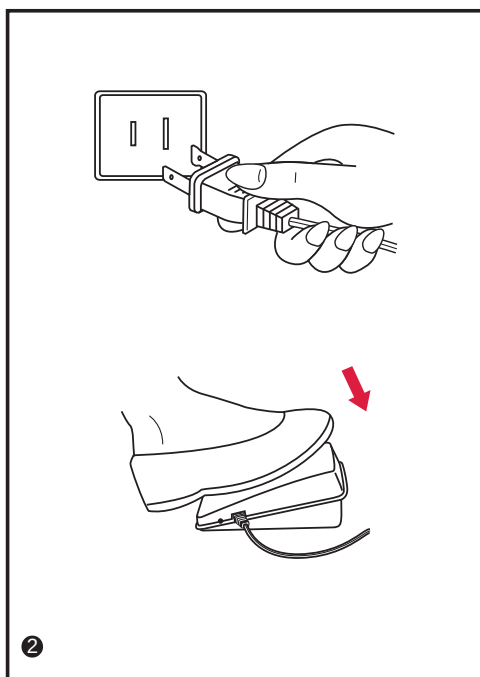
◆ 電源のつなぎ方と始動・停止

⚠ 警告：感電、火災を防ぐために
電源は必ずプラグを持って抜き差ししてください。



- ① 電源コードのプラグ①をマシンに、プラグ②を家庭用電源(100V 50/60Hz)をコンセントに差し込みます。

電源スイッチを入れると、照明ランプが点灯します。



- ② **ご注意**
マシンをご使用にならないときには、必ず電源プラグを抜いておいてください。

警告：感電、火災を防ぐために
コントローラーは落としたり、座ぶとんなどの下において使用しないでください。

マシンのスタート・ストップは、フットコントローラーで行います。
フットコントローラーの踏み加減でぬう速度を調節できます。

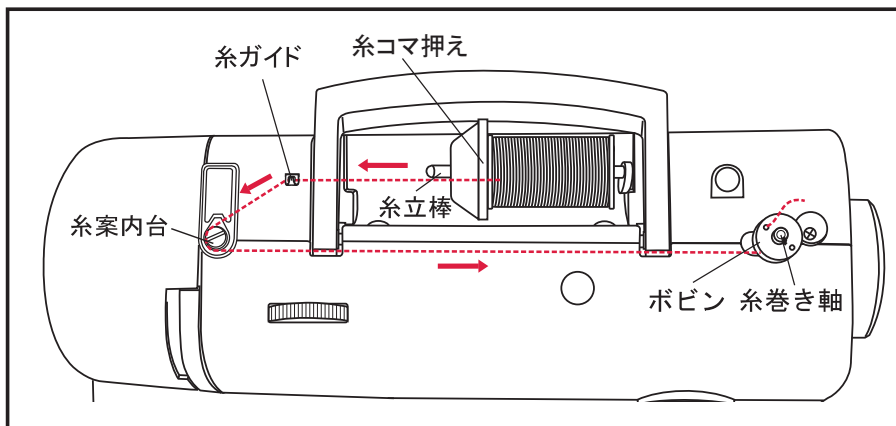
フットコントローラーの使い方
・軽く踏む：ぬいスピードは遅い
・深く踏む：ぬいスピードは速い

◆ 下糸の巻き方

下糸用の糸をボビンに巻いてから、ミシンにセットします。

⚠ 注意：ケガ防止のために

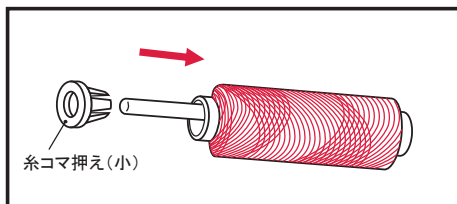
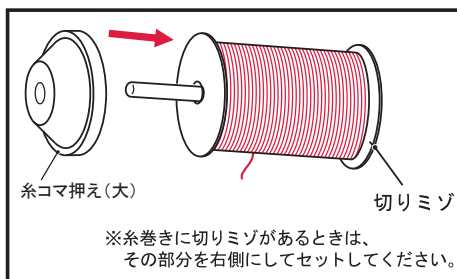
- 糸コマの向きや糸コマ押えが正しくセットされていないと、糸立棒に糸がからまり、ボビンにきれいに糸が巻けません。
- ボビンは必ず専用ボビン（高さ11.5mm プラスチック製）をご使用ください。専用ボビン以外を使用すると、ミシンが正しく動作しません。ケガ・故障の原因となります。
- ボビンを取り出すときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



糸コマをセットします

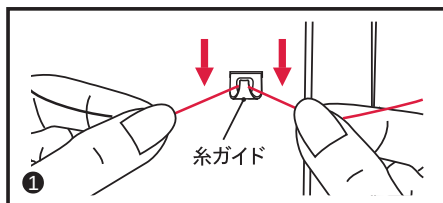
糸立棒を軽く持ち上げ、下側から手前に糸が出る向きにして糸コマを入れ、糸コマ押えで糸コマを押えます。

※小さい糸を使用するときは、糸コマ押えを裏にして取り付け、糸コマから少し離してセットします。



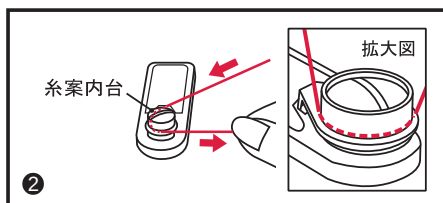
糸コマが細いときには、糸コマ押え(小)をご使用ください。

◆ 下糸の巻き方

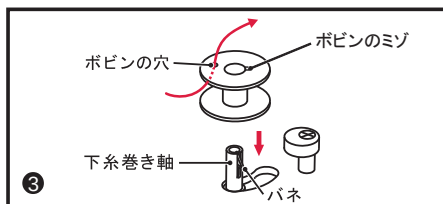


下糸を巻きます

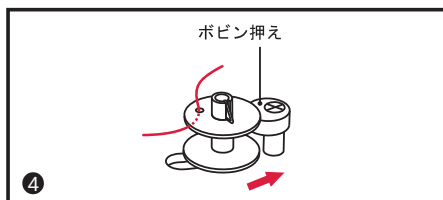
① 糸コマから糸を引き出し、糸ガイドの後ろから手前に糸をかけます。



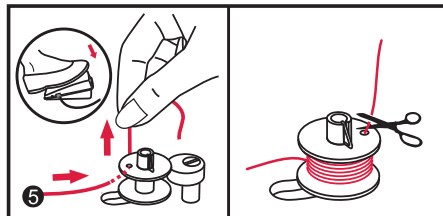
② かけた糸はしをさらに引き、糸案内台の下に奥までしっかり入るように、左回りに糸をかけます。※正しく糸がかかっていると、糸を右に引いたとき、抵抗感があります。



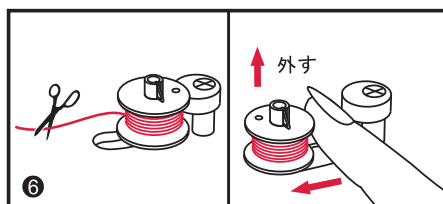
③ 糸案内台にかけた糸を右に引き出し、ポビンの穴に内から外に通します。ポビンのミゾと下糸巻き軸のバネの位置を合わせ、ポビンを下糸巻き軸に差し込みます。



④ 下糸巻き軸にセットしたポビンを右方向にスライドさせポビン押えに押し付けます。



⑤ ポビンの表面の穴に入れた糸を10cmほど引き出し、そのまま糸はしを手で真上の方方向に持ちます。フットコントローラーを軽く踏み、巻き始めます。少し糸を巻いたら、いったん止めて、ポビンの上に出てくる余分な糸を切ります。その後、再度巻き始めます。

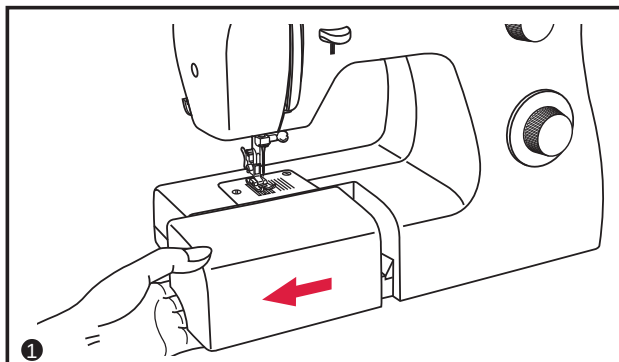


⑥ 巻き終わると、ポビンの回転がゆっくりになります。糸を切り、下糸巻き軸を左に戻してからポビンを取り外してください。

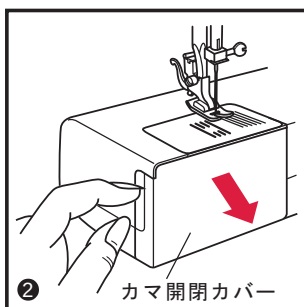
◆ ボビンの挿入方法

⚠ 注意：ケガ防止のために
必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

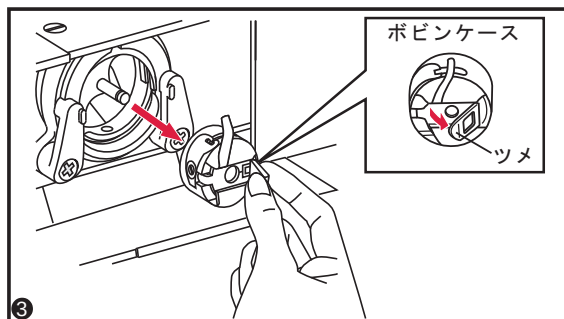
ボビンの挿入および取り外しを行うときは、はずみ車を回し、針上止点ラインを合わせてください。(13ページ参照)



① 補助テーブルの左はしを持って、矢印方向に引き、補助テーブルを外します。

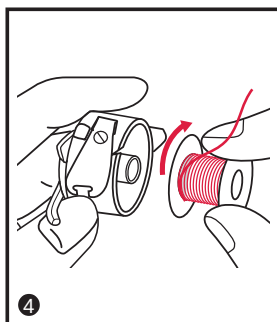


② カム開閉カバーを開きます。



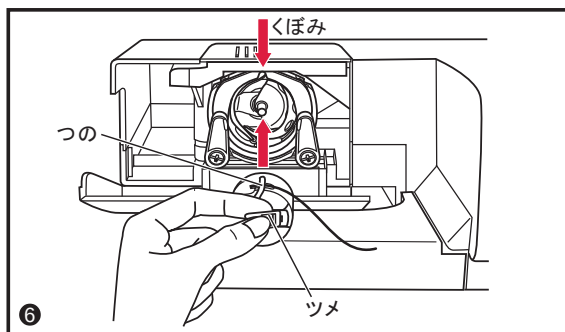
③ ボビンケースを取り外すときは、ツメの部分を手前に引っ張り、立ててから持ち、手前に引くようにします。

◆ ボビンの挿入方法



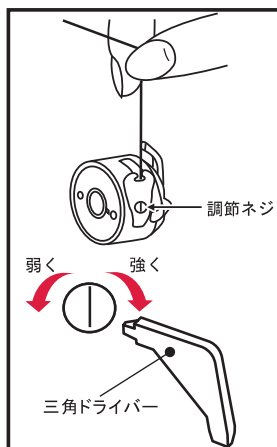
④ ボビンケースを片手で持ち、糸が時計回り(矢印の方向)になるようにボビンをセットします。

⑤ 糸はしを持ち、切りミゾから糸調子バネの下を通して穴から糸を10cmほど引き出します。糸を引いたとき、ボビンが時計回りに動くかを確認します。



⑥ ボビンケースのツメの部分を持ち、カマの中にセットします。ボビンケースのつの部分が、外ガマの上にあるくぼみに、はまるようにしてください。

◆ 下糸の調節の仕方



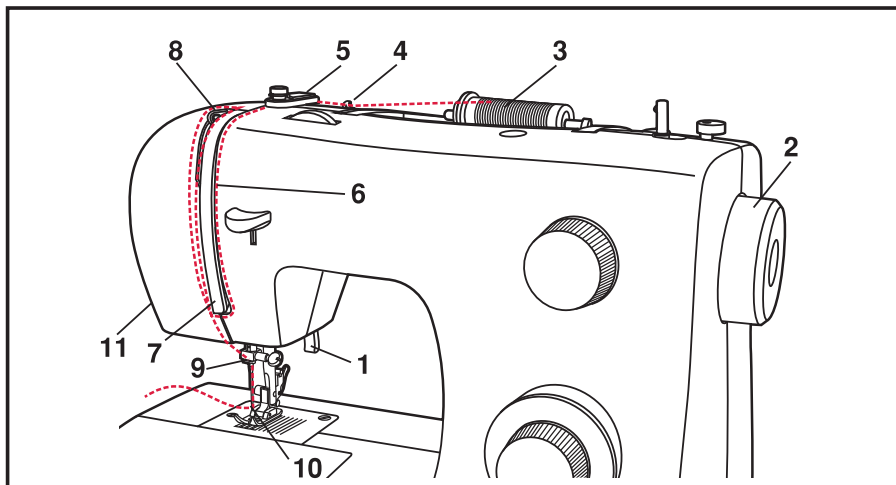
糸調子は「下糸調子を基準にして、上糸の調子をとる」のが原則です。

下糸の調節は、左図のようにボビンケースの穴から出る糸はしを持ち、下方向に振り下げた時に、ちょっと動いて止まる(目安は2～3cm下がる)程度を基本とします。

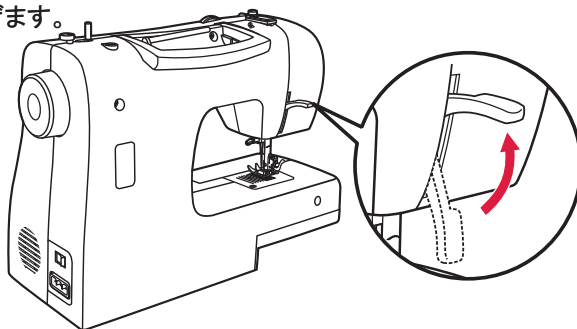
試しぬいをして下糸が強い場合は、調節ネジを、三角ドライバーで左に回して糸調子を弱くし、下糸が弱い場合は右に回して強くします。

◆ 上糸のかけ方

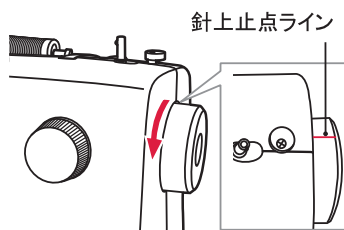
⚠ 注意：ケガ防止のために
必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



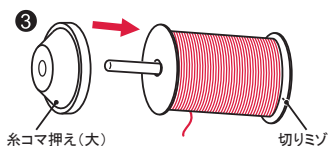
① 押え上げレバーを上げます。



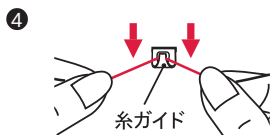
② はずみ車を手前に回し、針上止点ラインを
合わせます。



◆ 上糸のかけ方



糸コマをセットします。
下側から手前に糸が出る向きにして、糸コマを糸立棒にセットし、糸コマ押え(大)で、糸コマを押えます。
※糸コマが細い場合には、糸コマ押え(小)を使用してください。

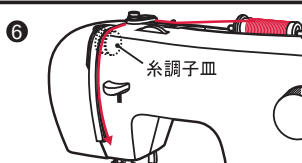


糸ガイドの後ろから手前に糸を通します。



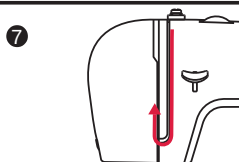
アーム糸かけに背後から手前に糸をかけます。
アーム糸かけの下に糸が通ります。

※下糸巻きの際使用した、糸案内台には糸を絶対にかけないでください。



右側の糸道に糸を引き下ろして、糸を両手で持ち、糸調子皿の間に通します。

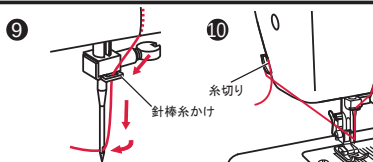
※糸調子皿は、ミシン内部の部品ですので、外からは見えません。



糸を左側の糸道から上に引き上げます。



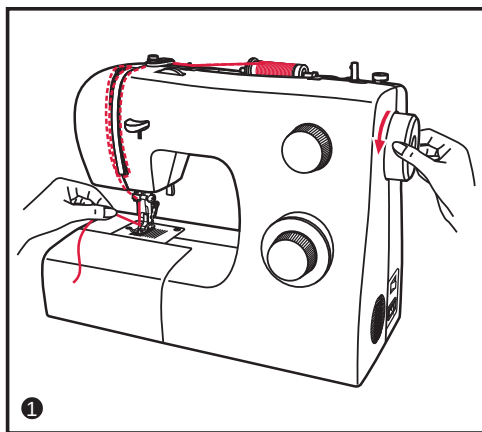
天びんの右から後ろへ糸を回し左前に引き、天びんの穴の奥まで糸をかけます。



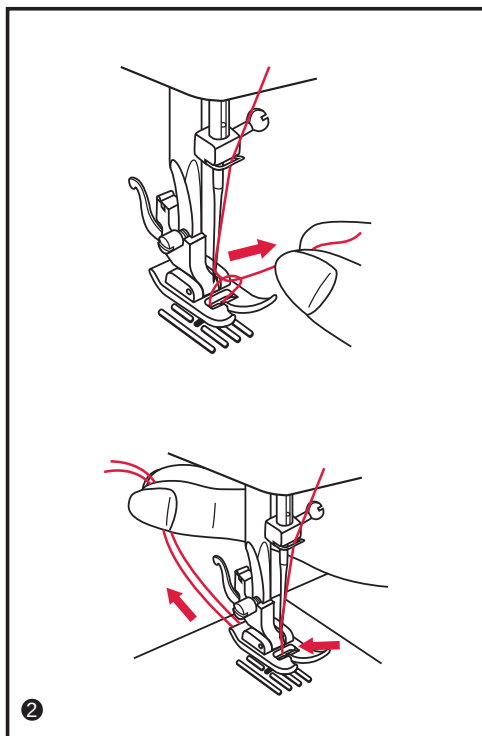
⑨ 引き下ろした糸を、針の上にある、針棒糸かけに右奥から糸をかけたあと、針の前から後ろに糸を通します。

⑩ 余分な糸は糸切りでカットします。

◆ 下糸の引き上げ方



- ① 押え上げレバーを上へ上げ、針に通した糸を左手で持ちます。
はずみ車を手前に回して、針をいったん針板の下に下ろし、その後上げます。



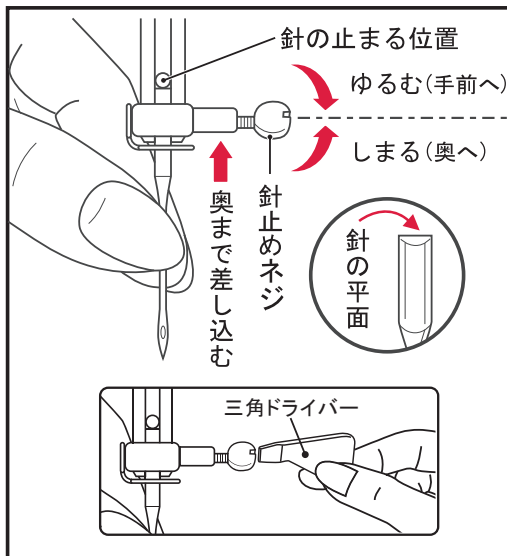
- ② 上糸を軽く引っ張ると、下糸が引き出されます。上糸と下糸をそろえ、押えの下から後ろ側に10cmくらい出しておきます。

◆ 針の取り外し方と取り付け方

⚠ 注意：ケガ防止のために

- 曲がった針や先のつぶれた針は、危険ですので、ご使用にならないでください。
- 必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
- 針は必ず家庭用ミシン針(HA×1)をご使用ください。

針は、布や糸に合わせて選びます。次ページの「布地に適した針と糸の選び方」を参照してください。



電源を切ります。

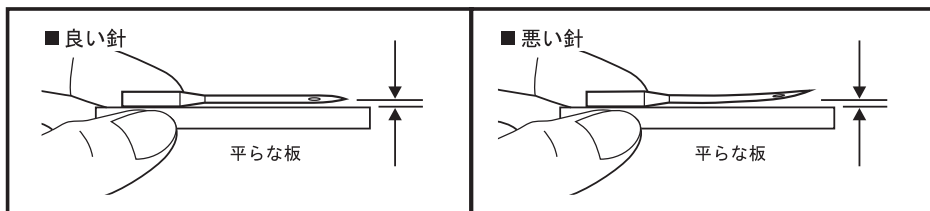
はずみ車を手前に回して、針を一番上に上げます。

押え上げレバーを下げます。

針止めネジを三角ドライバーで手前に回しゆるめ、針を下に引き抜きます。

新しい針の裏面(平らな面)を向こう側(押え棒側)に向け、針の止まる位置まで深く差し込んで、針止めネジを三角ドライバーで締め付けます。

取り付け前には、針板など平らなものにのせ、のぞいてみて確かめてください。



◆ 布地に適した針と糸の選び方

ミシン針は、布地や糸の太さによって使い分けます。この表を目安に、布地にあった針と糸を選び、試しぬいをして確かめてください。

※必ずミシン専用の糸をご使用ください。

布地の種類		糸の番号	針の番号
薄地	薄地ジョーゼット、オーガ ンジー、ボイル、絹布など。	スパン系糸 90 (ポリエステル) 綿 80~100 絹 60~80	9~11 番
普通地	ギンガム、リンネル、さら さ木綿、サテン、薄手コー デュロイ、別珍、一般服地 など。	スパン系糸 60 (ポリエステル) 綿 50~80 絹 50	11~14 番
厚地	ギャバジン、ツイード、デ ニム、キルティング、コー デュロイ、ジーンズなど。	スパン系糸 60 (ポリエステル) 綿 40~50 絹 50	14~16 番
伸縮性の布地	ダブルニット、トリコット、 スパンデックス、ジャージ など。	スパン系糸 60 (ポリエステル) レジロン系糸 50	11~14 番 ニット用針

- ・糸は数字が小さいほど太く、針は数字が大きいほど太くなります。
- ・ニット用針は伸縮性のある布地や目飛びしやすい布地に使用します。
- ・購入時は、14番の針がミシンに取り付けられています。

※綿や絹の糸は、経年劣化により切れやすくなります。

なるべく新しい糸をお使いください。（目安として製造より2年）

※ナイロン透明糸およびメタリック糸、また手ぬい用の糸（キルト糸）などは
使用しないでください。

<オススメ>

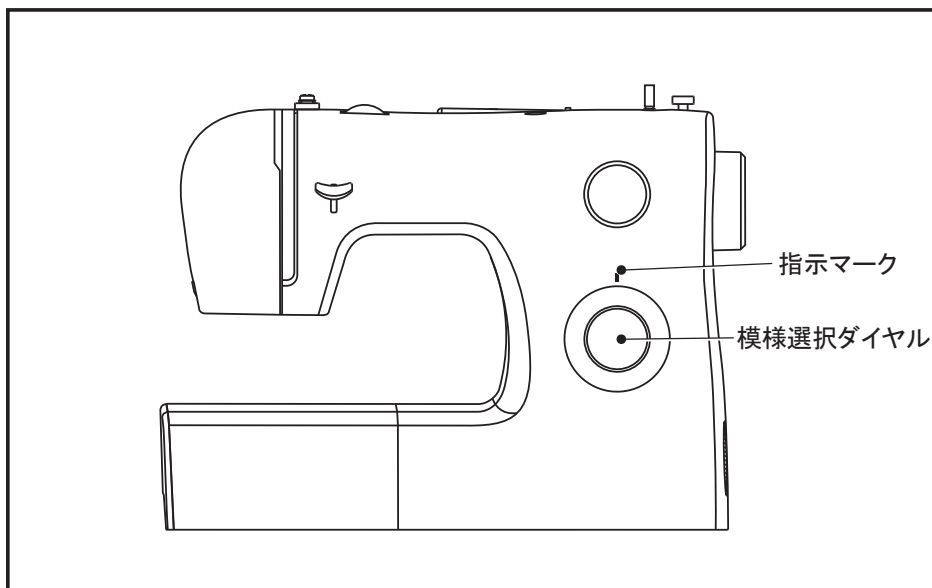
スパン系（素材：ポリエステル）の糸であれば、ほとんどの布地に対応でき、
また長持ちします。

◆ 模様を選び方

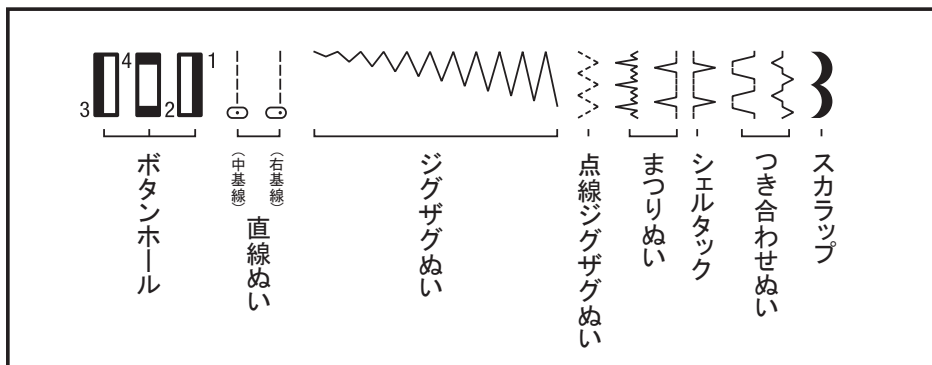
⚠ 注意：ケガ防止のために

模様選択ダイヤルを回すときは、必ずミシンを止めて、針を布地から上げてください。
針が布地に刺さっている状態では、針が折れ、ケガをする原因となることがあります。

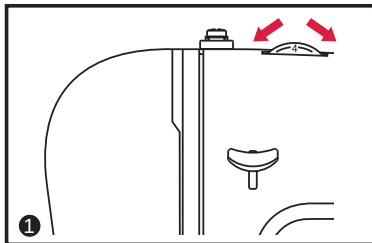
- 模様選択ダイヤルを回して、指示マークにぬいたい模様を合わせて模様を選択してください。



< 模様一覧 >



◆ 上糸調子の合わせ方

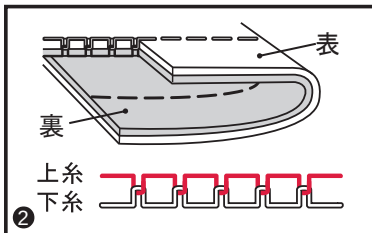


① 上糸調節ダイヤル

通常、上糸調節ダイヤルを「4」に合わせると、一般的な糸や布で糸調子が合うように調節されています。

【糸調子を強くする】ダイヤルの数字を大きくする

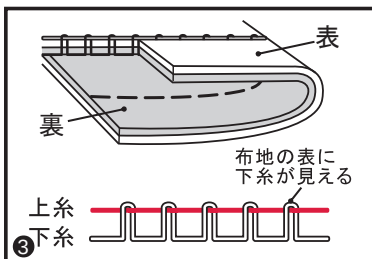
【糸調子を弱くする】ダイヤルの数字を小さくする



② 正しく調節されている場合

左図のように、上糸と下糸が布の中間で交差し、かつ、布や糸がつれたり、たるんだりしていない状態が正常です。

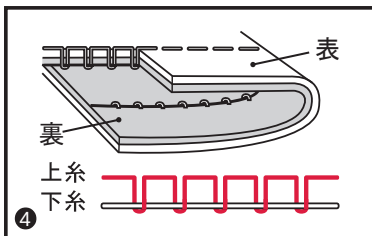
布や糸によって、糸調子がうまくとれない場合や、ギャザー寄せなどをするときには、上糸調節ダイヤルを回して、糸調子を調節してください。



③ 上糸が強い場合

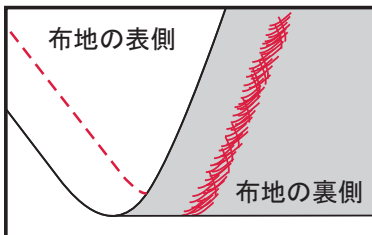
布の表の糸が1本になっているときは、ボビンが正しくセットされていません。正しくセットし直してください。

または、上糸の糸調子が強いので、上糸調節ダイヤルの数字を小さくして、糸調子を弱くしてください。



④ 上糸が弱い場合

布の裏側の糸が1本になっているときは、上糸の糸調子が弱いので、上糸調節ダイヤルの数字を大きくして、糸調子を強くしてください。

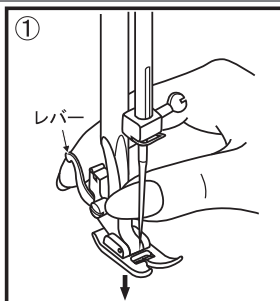


左図のように、布地の表側は普通にぬえて、裏側がタオル地のように糸が絡まるのは、上糸の糸調子が弱い、上糸のかけ方が間違っています。

または、押え上げレバーを下げたまま糸かけをすると、この状態になります。

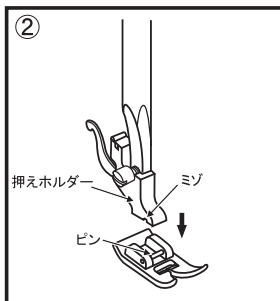
13, 14 ページをご覧の上、上糸を正しく糸をかけ直してください。

◆ 押えの取り外し方と取り付け方



① 押えの取り外し方

押え上げレバーを上げ、押えを上げます。
押えホルダーのレバーを手前に押すと、押えが外れます。

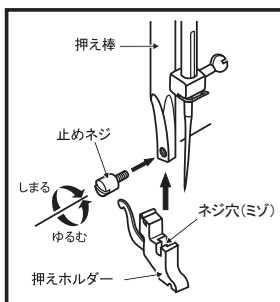


② 押えの取り付け方

交換したい押えのピン部分を押えホルダーのミゾの真下におきます。

静かに押え上げレバーを下ろし、押えのピンを押えホルダーのミゾにいれます。

◆ 押えホルダーの取り外し方と取り付け方



・押えホルダーの取り外し方

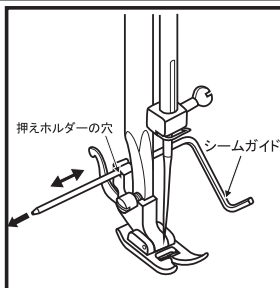
はずみ車を回して、押えを上げます。押えを取り外し、ドライバーを使い、止めネジを奥に回しゆるめて、押えホルダーを取り外します。

・押えホルダーの取り付け方

押えホルダーのネジ穴と、押え棒のネジ穴の高さを合わせ止めネジで取り付けます。止めネジはドライバーで手前に回して締め付けます。

※押えの交換は、押えホルダーを取り付けたまま行います。
取り外す必要はありません。

◆ シームガイドの取り付け方



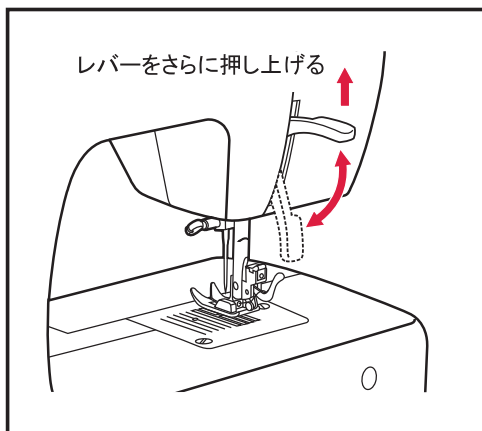
・シームガイドの取り付け方

シームガイドは、取り付けることで、平行のステッチや均一なステッチをぬうためのガイドになります。

押えホルダー後ろ上部にある穴に右側から差し込み取り付けます。

ガイドを左右させることで、ガイドとなるステッチ幅の変更ができます。

◆ 押え上げレバー

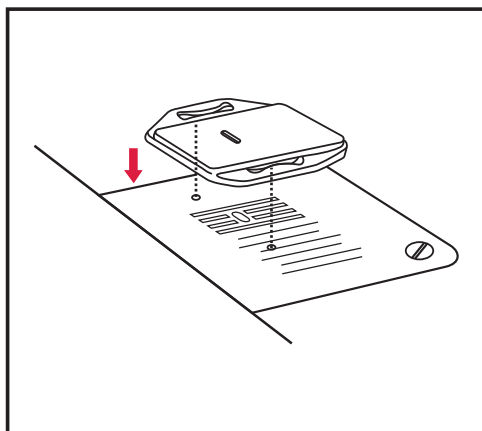


布を何枚か重ねてぬうときや、厚い布地をぬうとき、これらの布を押えの下に入れやすくするため、押えをさらに上にあげることができます。

※このときレバーは固定されません。

手を放すとレバーは普通に上げた位置に戻ります。

◆ 送りカバープレート



フリーハンドで刺しゅうぬいなどを行う際には、送り歯に送りカバープレートを取り付けます。

送りカバープレートを取り付けている間は送り歯が効かなくなります。

布を送りませんので、布を自由に動かします。

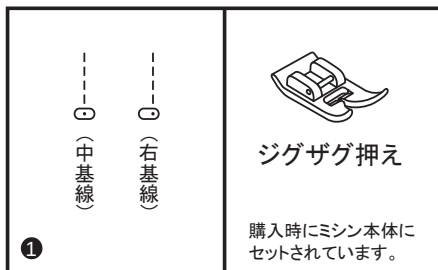
イラストを参照して、送りカバープレートをセットしてください。

通常のソーイングでは送りカバープレートは必ず取り外してください。

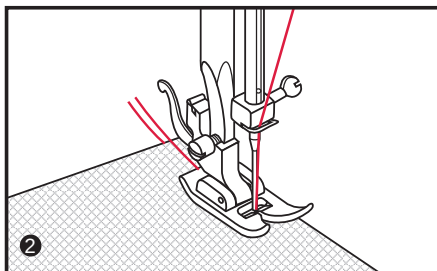
◆ 直線ぬい

⚠ 注意：ケガ防止のために

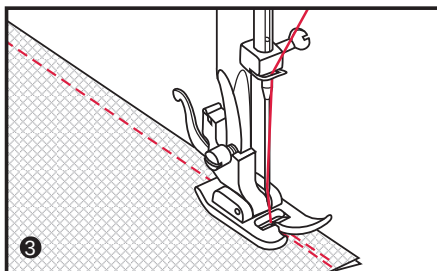
- 針先には十分注意してください。
- 布地は、ミシンによって送られますので、無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。針が折れ、ケガをする恐れがあります。



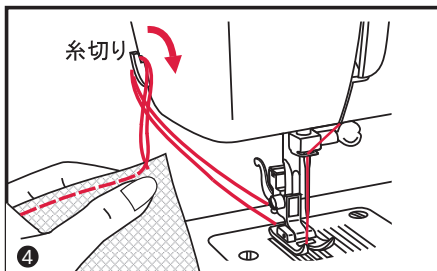
- ① 押えはジグザグ押えを使用してください。
模様選択ダイヤルで2種から模様を選び
ます。
上糸調節ダイヤルを合わせます。
(19ページ参照)



- ② 布地を押えの下に置き、ぬい始める位置で
はずみ車を手前に回し、針を刺してから、
押え上げレバーを下げて押えを下ろします。
フットコントローラーを足で踏み、スタート
させます。

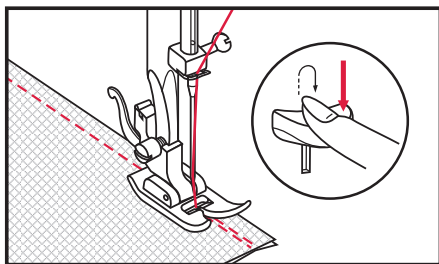


- ③ ぬい終わったらフットコントローラーから足を
放して、ストップします。
はずみ車を手前に回し、針を一番上に上げ
ます。



- ④ 押えを上を上げ、布地を取り出します。
ミシン本体左側面にある糸切りに糸をかけて
手前に引くと糸が切れます。

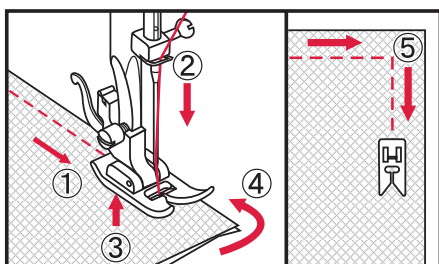
◆ 返しぬい



フットコントローラーを踏みながら、返しぬいレバーを押し下げます。押し下げている間は、返しぬいができます。レバーを放すと前進に戻ります。

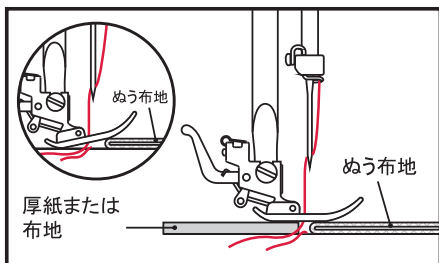
ぬい始めとぬい終わりに3～5針返しぬいをしておくと、ぬい目がほころびず、丈夫になります。

◆ ぬい方向のかえ方



- ① 布地の角まで来たら、フットコントローラーから足を放します。
- ② はずみ車を手前に回し、針を下げ、布に刺します。
- ③ 押え上げレバーを上げ押えを上げます。
- ④ 針を刺したまま布地を回し、ぬい方向にセットします。
- ⑤ 押えを下げて、ぬい始めます。

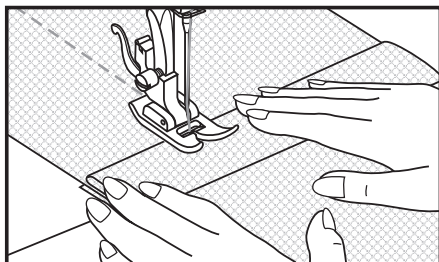
◆ 厚地のぬい始め



厚地の布はしからぬい始めるときに押えが傾いてスムーズにぬえないことがあります。

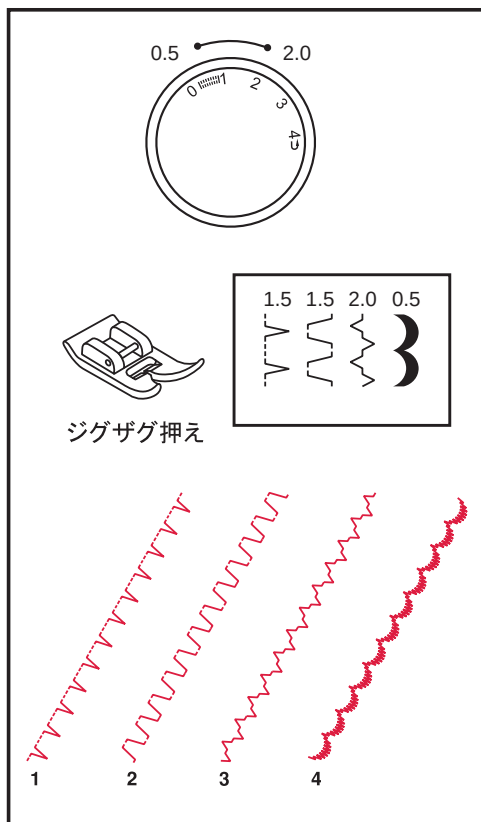
このようなときは、押えの下に同じ厚さの布や厚地をあてがい、段差を無くしてからぬい始めます。

◆ 段ぬい



布地が重なって、急に厚くなった部分をぬうときは、手で布の送りを助けながらぬいます。

◆ 飾りぬい



送り長さ調節ダイヤルは、布に合わせて調節します。

1. シェルタック

布はしの手飾りぬいに使います。薄手の伸縮性のある布に適しています。

模様選択つまみは、"  " にセットします。針が右振れしたときに、生地のはしにくるように布地をセットしてください。

2. ランパード(つき合わせぬい)

模様選択つまみは、"  " にセットします。布のつき合わせやゴムをぬうのに使います。分厚い布や固い布にも使用できます。

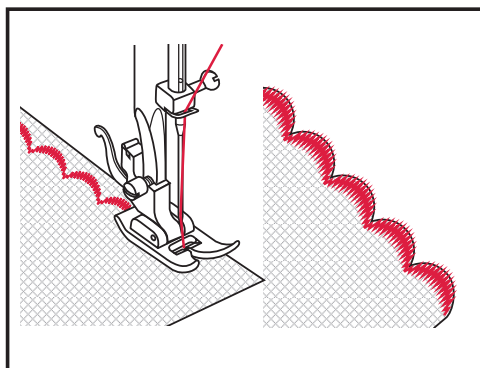
3. ブリッジ(つき合わせぬい)

模様選択つまみは、"  " にセットします。ぬい合わせに使います。布と布をつき合わせてぬうことができます。コードやシャーリング用のゴム入れや、ギャザーを寄せにも使えます。

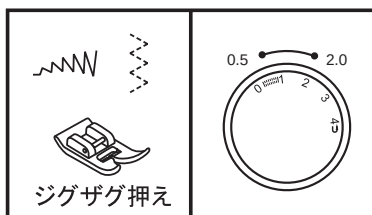
4. スカラップぬい

模様選択つまみは、"  " にセットします。布はしに沿って、デリケートな仕上げをしたいときに使います。

布はしを1cmくらい残してぬいます。糸を切らないように、ぬい目の外側の布をぬい目にそって切り落とします。

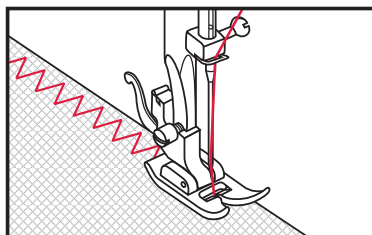


◆ ジグザグぬい/たち目かがり



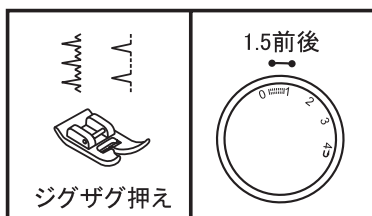
ジグザグぬいの糸調子は直線ぬいに比べ、上糸をやや弱めにし、裏に上糸が出るくらいが適当です。

送り調節ダイヤルの目盛を0に近づけるにしたがって、密着したジグザグぬいになります。
※ダイヤルの数値を0にすると、ぬえなくなります。



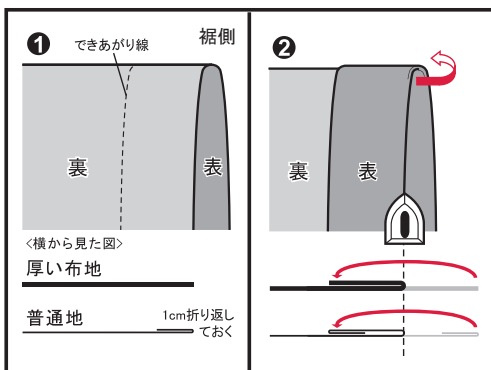
●伸縮性のある布(ニット、ジャージ、トリコットなど)には、市販の接着芯を貼るときれいにぬえます。

◆ まつりぬい (ブラインドステッチ)



ズボンやスカートの裾、袖口のまつりに使います。

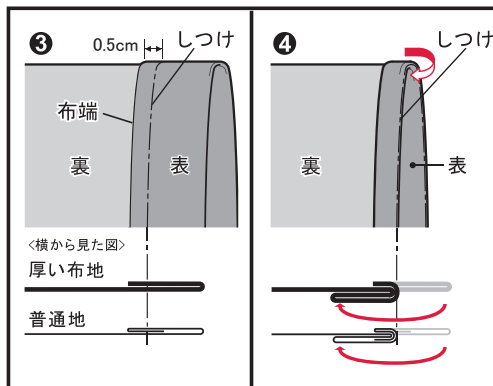
スカートやズボンの裾は、次の手順でまつります。



① 裾上げするスカートやズボンを裏返します。

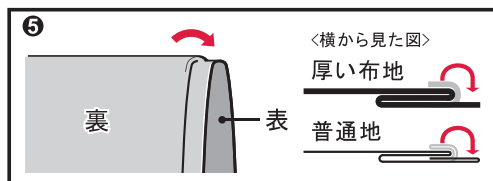
② できあがり線で布を表に返し、アイロンをかけます。

◆ まつりぬい（ブラインドステッチ）

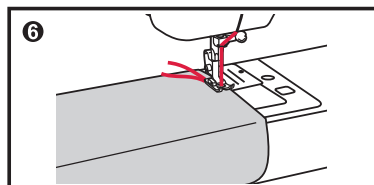


③ 布はしから約0.5cmのところにチャコペンなどで印を付け、しつけをします。

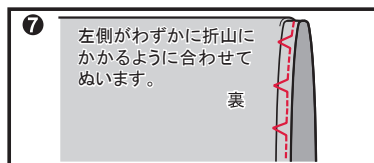
④ しつけをしたところから、内側へ折り込みします。



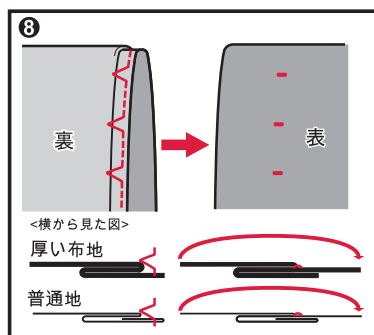
⑤ 布はしを開きます。



⑥ ミシンをフリーアームにし、アームに布地を入れ、布地を回すことができるのを確認してください。

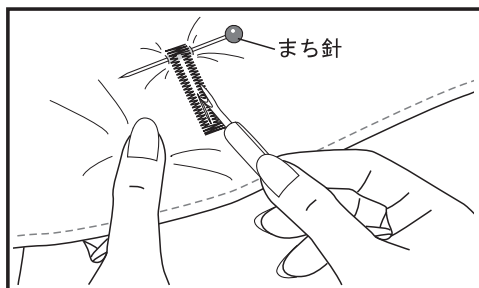
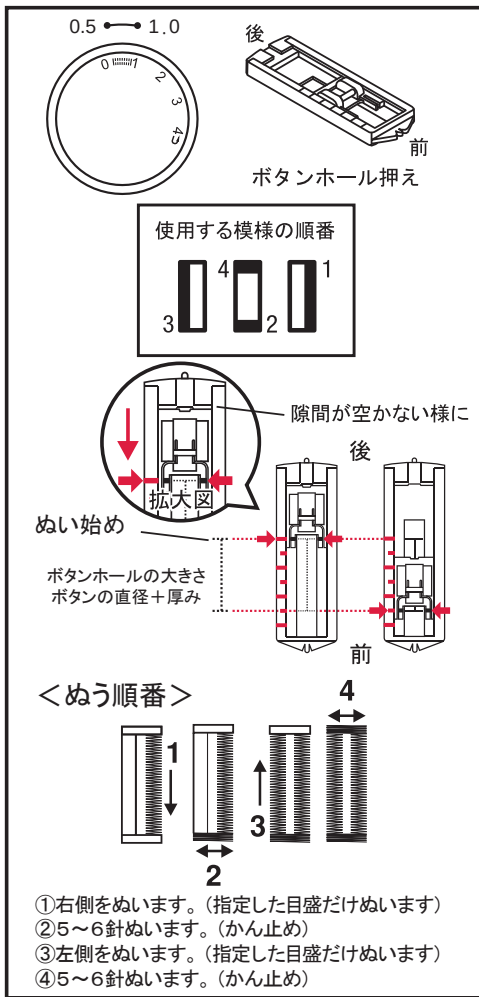


⑦ はずみ車を回して針が最も左側にくるようにしておきます。その時に針が折山にわずかに刺さるように布の位置を合わせてぬいます。



⑧ しつけをほどき、布地を表に返します。

◆ ボタンホールのぬい方



準備

- ・模様選択ダイヤルをボタンホール1にセッします。
- ・ボタンホール押えに交換します。

- ・ボタンの直径+厚みをボタンホールの穴かがり部分の長さとしてします。
布にボタンホールのサイズを印します。

- ・ミシンに布をセッします。布に付けたボタンホールの印の一番下中心部分に押えの穴の中央を合わせて押えを下げ、押えの手前に隙間が空かない様にセッします。

- ・送り長さダイヤルを、0.5～1にしてぬい目の密度をセッします。

- ・模様選択ダイヤルの図の1～4の順にダイヤルを合わせます。
- ・ダイヤルを変更するときは、針を刺したままにしておきます。

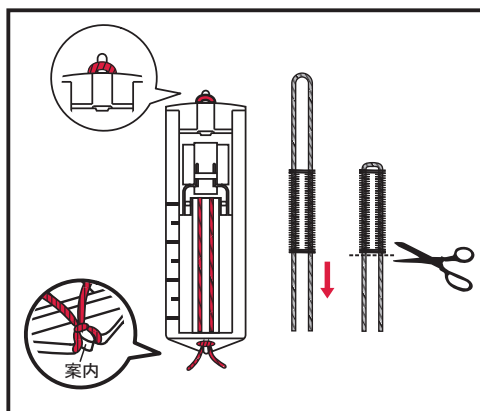
※2と4は同じ動作です。ボタンホールの下か上かの違いです。

- ・ぬい終わったら、付属のリッパーでボタンホールを切り開きます。
- ・ぬった部分を切らないように、かんぬき止めの内部にまち針を刺します。
※まち針は付属品ではありません。

⚠ 注意: ケガ防止のために

リッパーで穴を開けるととき、リッパーの先端に手や指を置かないでください。すべったときにケガをするおそれがあります。

◆ ボタンホールのぬい方



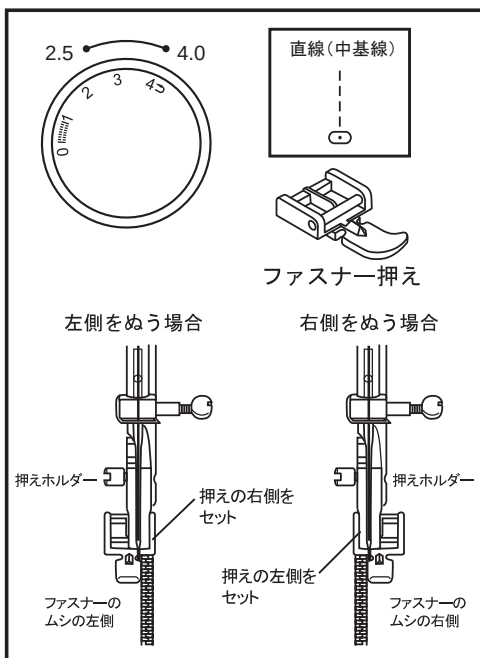
< 芯入りボタンホールの作り方 >

- 伸びる布地にボタンホールをぬうときは、ボタンホールに芯ひもを入れると丈夫になります。
- 芯ひもの輪を押えの後ろ側にあるツノにかけ、押えの下から手前に平行になるように引き出し、前側の案内にはさみ結びます。
- 通常のボタンホールと同じ手順でボタンホールを作ります。
- ボタンホールができたなら、左側の芯ひもを引いてたるみをなくし、余分な芯ひもを切ります。

ボタンホールをぬうときのヒント

- 上糸の糸調子を少し弱くすると、きれいに仕上げられます。
- 薄手の布および伸縮性のある布には、必ず市販の接着芯をあてるようにしてください。

◆ ファスナー付け



模様選択ダイヤル直線(中基線) “ ” を選択します。

送りの長さは、布の厚みによって、2.5～4の間にセットします。

ファスナー押えに交換します。

⚠ 注意: ケガ防止のために

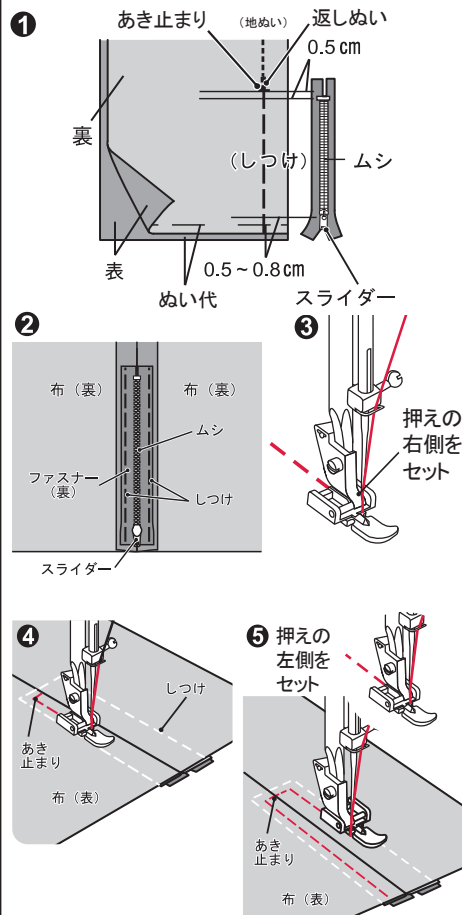
ファスナー押えを使用するときは、必ず直線(中基線)のみご使用ください。他の模様では、針が押えに当たって折れ危険です。

ファスナー押えは、ぬう側を合わせて、左右どちらかにセットします。
ファスナーのムシの左側をぬうときは、押えの右側のミズを押えホルダーにセットしてください。
ファスナーのムシの右側をぬうときは、押えの左側のミズを押えホルダーにセットしてください。

◆ ファスナー付け

ファスナーの付け方には、「つきあわせ」と「脇あき」があります。

● つきあわせ



● つきあわせ

① 中表にして布を合わせ、図のようにあき止まりまで地ぬいをします。あき部分はしつけをします。

※ 数値はあくまでも目安であり、布の厚さや作品により変わります。

② ぬい代をわり、ぬい目にファスナーのムシの中心を合わせて、しつけします。しつけはほどこしやすいよう粗めでぬいます。

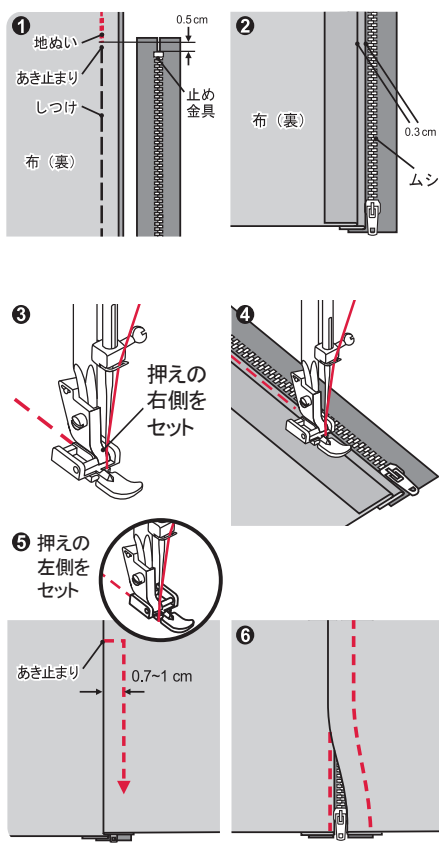
③ ファスナー押えの右側を押えホルダーに取り付けます。
(ファスナーのムシの左側をぬう場合)

④ ファスナー左側を、布の合わせ目から0.7~1 cm 離して、あき止まりからぬいます。

⑤ ファスナー押えのミゾを左側にセットし、あき止まりの右側もぬい、しつけをとります。右側も同様に布の合わせ目から0.7~1 cm 離してぬいます。

◆ ファスナー付け

● 脇あき



● 脇あき

①中表にして布を合わせ、図の様にあき止まりまで地ぬいをします。あき部分はしつけをします。

②ぬい代をわり、下の布のぬい代を0.3 cm出して折り目を付け、折り山をムシに合わせます。

※数値はあくまでも目安であり、布の厚さや作品により変わります。

③ファスナー押えの右側を押えホルダーに取り付けます。(ファスナーのムシの左側をぬう場合)

④ファスナーの左側を、あき止まりからぬいます。押えがファスナーのムシに乗らないようにしてぬいます。

⑤ファスナー押えのミゾを左側にセットし、上の布を開き、あき止まりと右側をぬいます。右側の布の折り目から、0.7~1 cm 離してぬいます。

⑥スライダーの手前で止め、しつけを取り、スライダーを下げて残りをぬいます。

◆ LED ライトの交換

ミシンに装備されているLEDライトは非常に長持ちなので、通常交換の必要はありません。もし万が一、交換の必要が生じた場合には、お買い上げのお店にご相談ください。

◆ ミシンのお手入れ

⚠ 注意：ケガ防止のために

部品の交換やお掃除の際には、必ずスイッチをオフにし、ミシンの電源プラグを抜いてください。

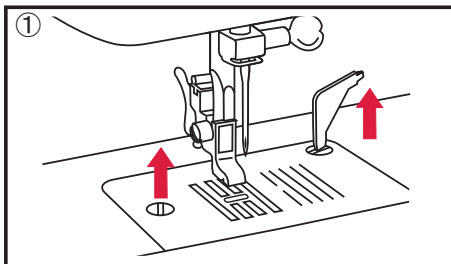
● お手入れ前の準備

1. 押え上げレバーを上げ、押えを上げます。押えと、押えホルダーを取り外します。(P20参照)
2. はずみ車を回し、針を一番高い位置に上げ、針を取り外します。(P16参照)

● お手入れ方法

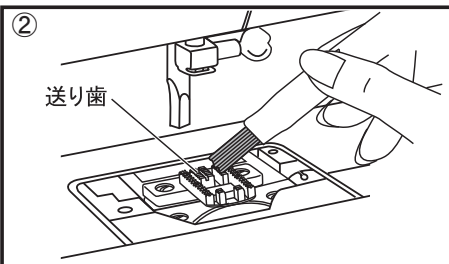
① 針板の取り外し方

付属品の三角ドライバーで針板の2本のネジをゆるめ、針板を取り外します。



② 送り歯の掃除

送り歯のゴミを、ブラシで掃除します。

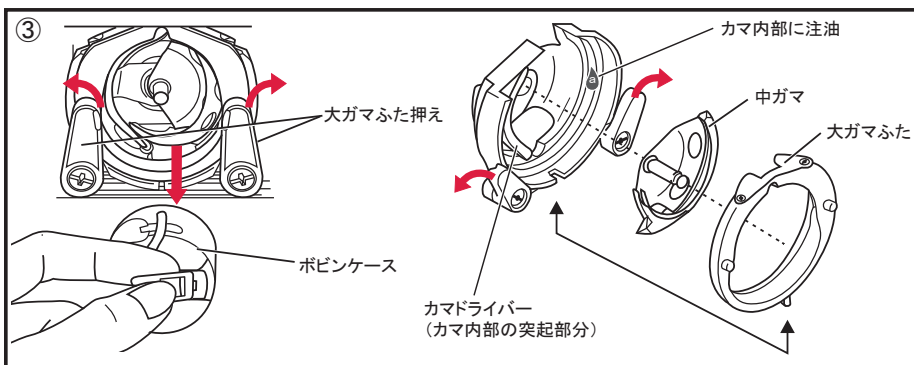


③ カマの掃除

補助テーブルを取り外し、フリーアームの前にあるカマ開閉カバーを開きます。(P11参照)
ボビンケースを外し、大ガマふた押えを左右に開き、大ガマふたと中ガマを外します。
ブラシで中ガマと、カマの内部を掃除し、布でふきとります。

図のa部分に油をさしてください。油は一滴で十分です。

はずみ車を回転させ、カマドライバー(突起部分)を左側にした状態で、図のように、中ガマ、大ガマふたの順に取り付け、大ガマふた押えで固定します。針板を取り付け、ネジで固定します。



⚠ 注意：

- ・針が下の位置にある場合には、中ガマを取り外すことはできません。
- ・注油後は必ずはずみ車を回し、針がスムーズに上下するかどうかを確かめたあと、試しぬいをしてください。
- ・送り歯やカマの掃除と注油は定期的に行ってください。汚れや油切れはミシンの不調の原因となります。

◆ 困ったときには

問題	原因	解決方法
上糸が切れる	・ミシンの糸かけが間違っているとき。 ・上糸調子が強すぎるとき。 ・針に対して糸が太すぎるとき。 ・針の付け方が間違っているとき。 ・糸立棒に糸がからまっているとき。 ・針が曲がっていたり、針先がつぶれているとき。	・上下糸をかけ直してください。 ・上糸調子を弱くしてください。(小さい数字) ・太い針に交換してください。 ・平らな面が後ろを向いた状態で針を差し込み、付け直してください。 ・糸コマを外し、糸立棒にからまった糸を外してください。 ・針を交換してください。
ぬい目が飛ぶ	・ご使用の糸が古いとき。 ・ボビンに糸が正しく巻かれていないとき。 ・糸かけが間違っているとき。 ・針の取り付け方が間違っているとき。	・新しい糸をお使いください。 ・均等に綺麗に糸を巻いたボビンを使用してください。 ・上下糸をかけ直してください。 ・平らな面が後ろを向いた状態で針を差し込み、付け直してください。
針が折れる	・針が曲がっていたり、針先がつぶれているとき。 ・針の付け方が間違っているとき。	・新しい針に交換してください。 ・平らな面が後ろを向いた状態で針を差し込み、付け直してください。
ぬえない	・糸かけが間違っているとき。 ・針のサイズが布に合わないとき。 ・目的の違う押えを使っているとき。	・糸かけを確認してください。イラストをご参照の上、上下糸をかけ直してください。 ・正しい押えに交換してください。 ・糸と布に合う針に交換してください。
ぬい目にギャザーが寄ったり、つれたりする	・針、布、糸の組み合わせが合っていないとき。 ・糸調子が合っていないとき。 ・布に対して針が太すぎるとき。 ・ぬい目の長い直線を選択しているとき。 ・糸調子が強過ぎるとき。	・糸と布に合う針に交換してください。 ・糸調子を正しく合わせてください。 ・細めの針に交換してください。 ・ぬい目の細かい直線に変更ください。 ・上糸調子をゆるめてください。(小さい数字)
ステッチが均等でない、送りが均等でない	・ご使用の糸が古いとき。 ・下糸のかけ方が間違っているとき。 ・布が引っ張られているとき。	・新しい糸をお使いください。 ・ボビンケースを取り外して、糸かけをし直してください。 ・ぬいながら布を引っ張らず、ミシンの送りに任せてください。
ミシンの音が高い	・ミシンに注油が必要なとき。 ・カマまたは針棒に汚れやオイルが付着しているとき。 ・ミシン用オイルを使用していないとき。	・説明書にしたがって注油してください。 ・説明書にしたがってカマおよび送り歯を掃除してください。 ・注油にはミシン用のオイルをお使いください。
ミシンが動かない	・針が曲がっていたり、針先がつぶれているとき。 ・糸がカマに絡まっているとき。	・新しい針に交換してください。 ・上糸およびボビンケースを取り外して、はずみ車を手で前後に回し、絡まった糸を外して下さい。その後、説明書にしたがって掃除、注油をしてください。

◆ 修理サービス要領

● 修理サービスのご相談

- 1.このミシンのご購入者には、ご購入店から1年間の「無料修理保証書」が発行されます。内容をお確かめの上、大切に保存してください。
- 2.修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。

● 修理用部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、製造打ち切り後、通常8年間は必要に応じて当社よりご購入店に供給できる体制を整えております。

● 無料修理保証期間後の修理サービス

- 1.使用の手びきに基づいて正しい使用とお手入れがされていれば、無料修理保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスを行います。
- ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店にご相談ください。

イ.保存上の不備または、誤使用により不調、故障または損傷したとき。

ロ.浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。

ハ.ご購入後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。

ニ.ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。

ホ.職業用として無理なご使用により不調、故障または損傷したとき。

- 2.長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によっても元どおりに修復できないことがあります。
- 3.有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費および技術料金の合計額となります。
- 4.このミシンは持ち込み修理品ですので、修理の際はご購入店までお持ち込みくださるよう、お願いいたします。

160年以上も家庭用ミシンを作り続けてきたシンガーは、迅速で正しいサービスをモットーとして全世界のご家庭に安心して使えるミシンをお届けいたしております。

株式会社ハッピージャパン

〒110-0016 東京都台東区台東2丁目9番5号

TEL.03-3837-1865

(本社) 〒990-2251 山形県山形市立谷川3丁目3515